

育児の孤立化・児童虐待を防ぐ 子育て支援について

菅野 恭子

〔質問〕①児童虐待事件が続出する今日、暴力発言を使わず、子育て技術を習得できる、米国開発のコモンセンス・ペアレンティング（CSP）講座導入により、高成果を収めている自治体が増えてい

る。本市も子育て支援の見地から検討すべきでないか。

②核家族、一人親の増加等に伴い、育児の孤立化が進む中、父母の育児視野拡大・園との信頼関係構築等を目的に、子の通う保育園での一日保育士体験が好評である。本市では、深谷保育園が実施中、全園で推進できるように検討してはどうか。

【その他の質問】
○子宮頸がんワクチン

接種に国は来年度から一部支援の方向であるが、本市でも助成に踏み切るべきでないか。

〔答弁〕【市長】①児童虐待については連日マスコミ等でも取り上げられており、痛ましい事件が後を絶たずに、深刻な社会問題になっている。

県内のCSP講座の取り組み状況だが、宮城県や関係機関に問い合わせをしたところ、実施している事例はない。今後は、関係機関また子育て中の保護者等の意見を参考にしながら、子育て支援策として、育児に不安を覚える保護者等への支援講座の開催などについて検討していきたい。

②保護者の就労の関係から見ると、行事は極力保護者の負担とならないように今現在配慮している。ただ、今後



も、保護者との理解と協力を得ながら、保育

体験を実施できるように検討していきたい。
コモンセンス・ペアレンティングとは？
アメリカで開発された「被虐待児の保護者支援」ペアレンティングトレーニングのプログラム。暴力や暴言を使わずに子どもを育てる技術を教えることで、虐待の予防や回復を目指すもの。日本版が作成された2005年より日本でも普及活動が始まり、プログラムを終了した保護者の約8割に良い変化があったという報告があります。
(子どもの虐待防止センターホームページより)

「実効性のある改善計画」の議会への説明について

沼倉 昭仁

〔質問〕「病院改革プラン・改定版」が「実効性のある改善計画」となり得るのかを検証するため、「答弁」を頂けなかつた前回の6月議会に引き続き、市長に、再度、「答弁」を求める。

①市長は、今回の県の「計画」のなかで、「ツインホスピタル」の概念をどのように捉えているのか。

②刈田病院の単独で効果のある医師招聘策について具体的にどのようなに聞いているのか。
③「繰入金」を「年度当初」より構成市町で3億800万円増やさなければならぬ理由とは何か。

〔答弁〕【市長】1点目のツインホスピタルについては、仙南医療圏または1市2町という枠組みの中で、2次救急なり透析などの不採算医療や、結核や感染症などの社会政策的医療を実施することが、刈田総合病院の果たすべき役割と踏まえ、みやぎ県南中核病院と機能分担を行っていくことで、二つの病院が成り立っていくこと、それがツインホスピタルであると私は考えている。
2点目の、単独で効果のある医師の招聘策だが、管理者、副管理者、院長及び副院長一丸となり、医師の招聘にあたっては、ご理解をいただきたい。



刈田病院全景

3点目の繰出金を3億800万円増やすという負担金の変更については、本年4月23日付で、総務副大臣の「平成22年度の地方公営企業繰入金について」の通知により、繰出基準の一部改正があったことから、増額になったものである。赤字解消への対策としては、医師の招聘、看護師の採用に努め、持続可能な安定した経営のもと、良質で地域にとって必要な医療サービスの提供に努めることにあると考えている。